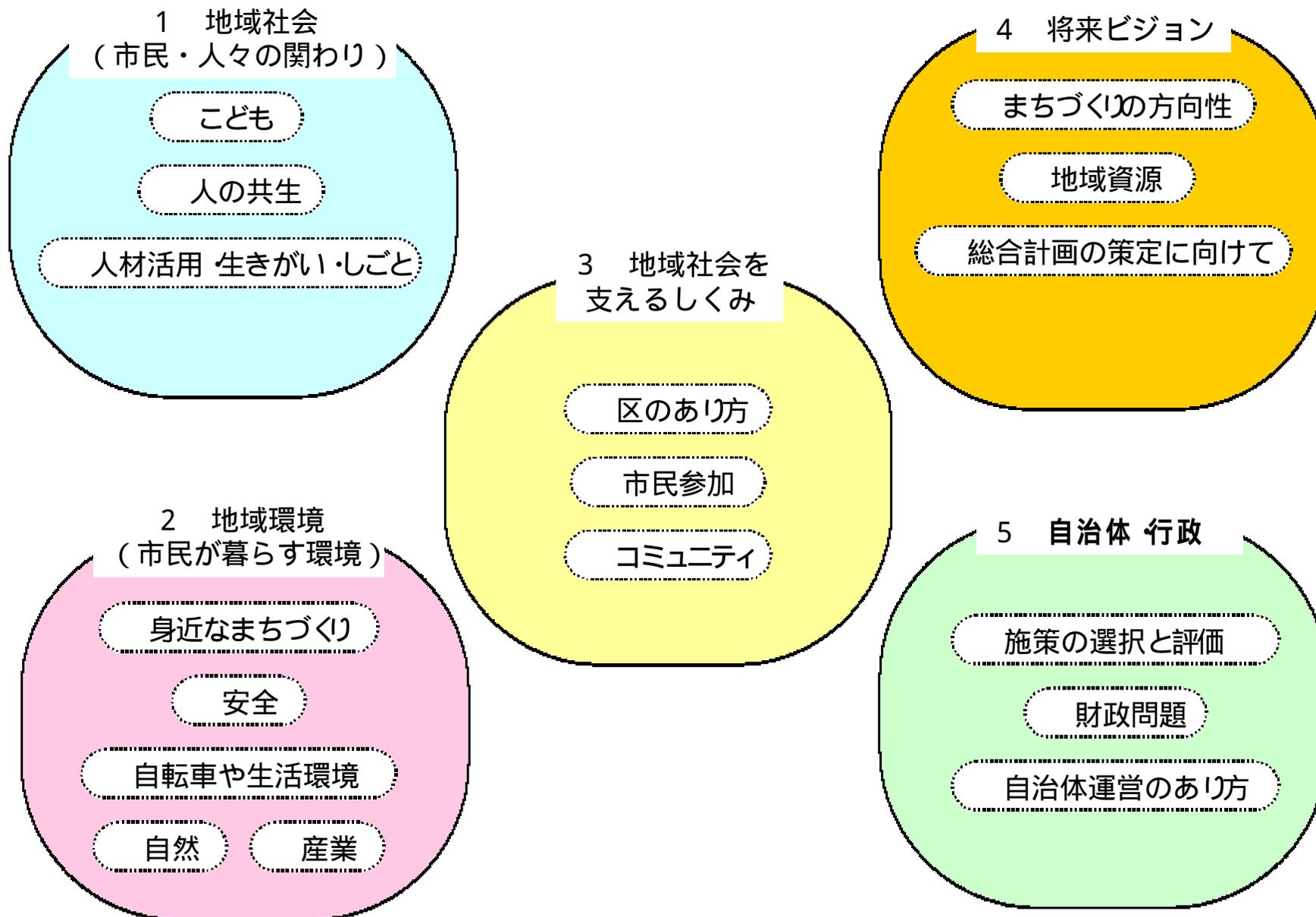


市民会議における議題テーマのグルーピング



1 地域社会 (市民、人々の関わり)

こども

- ・子育て、子どもに関わる施策の検証
- ・大きな政策目標に子育てを
- ・子どもを取り巻く環境
- ・子どもが置かれた状況の改善
- ・子どもによる市民活動
- ・子どもたちに福祉の考え方を
- ・子どもの意見表明権を大切に

人の共生

- ・高齢社会の諸課題
- ・高齢者が就業できる社会環境
- ・女性の目線に合う環境づくり
- ・女性の社会参画
- ・マイノリティへの福祉施策
- ・子どもを基本に考えると、いろいろ考えられる
- ・障害者虐待の防止
- ・家庭内の非に部分を社会で解決支援する仕組み
- ・社会的な弱者の人権
- ・国際化等にふさわしい政策
- ・多文化共生の都市づくり
- ・災害時の外国人への情報伝達

人材活用 生きがい・しごと

- ・市内の人材、既存組織の活用
- ・新たな市民活動による活気あるまちづくり
- ・市民アカデミーの健康寄与を検証する(介護費用抑止)
- ・自分らしく生きられるまち
- ・スローライフスタイルの提唱
- ・共に支えあう意識の共有
- ・ソフトな社会資本
- ・リタイヤ層が就業できる
- ・キャリアマインドの教育
- ・「もの」づくりから「人」づくりの時代へ
- ・自分の能力発揮

2 地域環境 (市民が暮らす環境)

身近なまちづくり

- ・経済効果のあるまち
- ・電線地中化、都市美観
- ・歩行者路ネットワーク
- ・子どもが遊ぶ道
- ・使いやすいバス交通
- ・コミュニティバス
- ・麻生区の交通問題改善
- ・都市計画道路の見直し
- ・歴史、文化の都市計画
- ・小杉駅近辺の高機能化
- ・既存ストックの有効活用

安全

- ・防犯、治安維持
- ・防災、地域ネットワーク
- ・適正な栄養、食生活情報など

自転車や生活環境

- ・放置自転車
- ・自転車対策、自転車との共生
- ・車から自転車優先へ
- ・ポイ捨て、過剰包装
- ・使い捨て用品

自然

- ・多摩川
- ・自然と調和したまちづくり
- ・自然と歴史を都市インフラに
- ・生き物が棲息できる環境
- ・都市農業をどうするか
- ・多摩川河畔にせせらぎ流水公園
- ・ピオトープ

産業

- ・新しい産業起こし
- ・臨海部の空洞化、活用
- ・魅力ある商店街
- ・中小企業を活かす産業文化都市
- ・南部の基礎技術等がハイテクへ繋がる

3 地域社会を支えるしくみ

区のあり方

- ・区への分権 内なる分権
- ・区を政策単位へ、区の自治

コミュニティ

- ・近隣関係の再構築
- ・スポーツを核にしたコミュニティ
- ・小・中学校の活用
- ・NPO活動の拠点
- ・各世代の新たな関係
- ・ソフト面の社会資本など

市民参加

- ・市民活動で活気あるまち
- ・あらゆる人の市民参画
- ・市民活力の具現化
- ・市民による新しい「公」
- ・行政と市民の協働など
- ・市民と行政の情報共有
- ・川崎都民の知恵を活かす
- ・市民に任せる
- ・公共サービスにNPOを
- ・市民の相互支援活動など
- ・パブリックな発想を持つ
- ・働く世代も声をあげよう

4 将来ビジョン

まちづくりの方向性

- ・人が住みたくなる都市
- ・ずっと住みたいまち
- ・憧れの都市川崎を
- ・若者が集る、住む
- ・子育て環境の良いまち
- ・市外との生活圏と行政
- ・東京などと違ったまち
- ・東京などと協調したまち
- ・文化芸術のまち
- ・自然と調和、持続可能な
- ・生活支援都市

地域資源

- ・川崎の独自文化
- ・「誇り」など共通の像
- ・全国、世界に新しい川崎を
- ・川崎の良いところを探す
- ・フロンターレと協働し、新イメージを
- ・多摩川土手に桜を植樹し、川崎の新名所に

総合計画の策定に向けて

- ・行政による将来ビジョン提示が必要
- ・超長期のビジョン
- ・どの年齢層を中心に
- ・2010プランの総括
- ・グレーター東京を視野に
- ・子どもの意見を反映

5 自治体 行政

施策の選択と評価

- ・税でまかなうサービスを再考
- ・施策評価を継続的に
- ・無駄な公共事業
- ・NPOによる政策評価など
- ・暮らしやすさを評価基準に
- ・重点的な施策選択

財政問題

- ・税金の使い方を考える
- ・財政問題を議論すべき

自治体運営のあり方

- ・行政の縦割り
- ・1万人アンケートを活用すべき
- ・市民の声を聞いて活かすべき
- ・地方分権の推進

市民会議における議論テーマのグルーピング（個別意見集）

1 地域社会（市民・人々の関わり）に関する課題

子ども

子育て・子どもに関わる施策（市民館の乳幼児学級、子どもに関する情報一本化、子どもに関する部署間の情報交換と連携、わくわくプラザ、こども文化センター、子育て支援センター、都市化・情報化の進展と子どもへの影響、子どもの虐待・放棄、親の心のケア、学童期からの乳児とのふれあい）

人を育てること、その中でも未来を担うであろう子どもを育てるための施策（大きな政策目標に子育てを位置づけることで、施策の総合的な連携が可能）

子どもを取り巻く環境（安全な遊び場の検証、いじめ、不登校、青少年犯罪など）

子どもが置かれた状況の改善

子どもによる市民活動

子どもたちに福祉の考え方を教育

子どもの意見表明権を大切にする（子どもの権利に関する条例）

人の共生

高齢社会（高齢者介護と介護負担、バリアフリー化の促進、高齢者虐待の防止）

高齢者が就業できる社会環境の整備

少子化に伴う女性の目線に合う環境づくり（育児・仕事の両立、社会参画、セクハラ・DVの防止、親の介護など）

女性の社会参画（雇用、労働力、IT）

マイノリティ（外国人市民）への福祉施策

子どもを基本に考えれば、ノーマライゼーション、区の自治の検討に繋がる
障害者虐待の防止

家庭内の非の部分で社会で解決・支援する方法（虐待、家庭内暴力、自殺など）

社会的な弱者の人権（ホームレス、外国人、日雇、AIDSなど）

国際化・IT化にふさわしい政策（外国人市民、外国人の文化・言語を生かす制度、外国人雇用促進）

多文化共生の都市づくり（まず外国人が市民として精神的・経済的に自立できること、意見表明できること）

災害時の外国人への情報伝達

人材活用・生きがい・しごと

市内の人材・既存組織の活用（その活力が、あこがれの都市かわさき、住みたくなる都市かわさきにつながる）

新たな市民活動による活気あるまちづくり（市民が自ら価値のあることを表現し活動、子ども達は自ら大切と思う価値を自分で決める人に育つ）
市民アカデミーが中高年の健康に寄与していることの検証（介護費用の抑制）
自分らしく生きてゆけるまちづくり
少子高齢社会を迎える中でのスロースタイルの提唱
共に支え合うという意識の共有
ソフトな社会資本（地域の中高年の働き手、人の信頼関係・ネットワークなど）
リタイヤ層の就業できる環境づくり（健康・生きがい、医療費減、経済活性化になる）
意欲と夢を持って仕事をする職業意識・キャリアマインドの教育
「もの」をつくる時代から「人」をつくる時代へ
自分の能力発揮

2 地域環境（市民が暮らす環境）に関する課題

身近なまちづくり

経済効果のあるまちづくり
電線地中化、都市の美観
楽しく歩ける歩行者路ネットワークづくり
子どもが遊ぶみち
使いやすいバス交通システムの整備（案内システム、バス優先、デマンド方式）
駅へのアプローチを容易にするコミュニティバスなどの整備
麻生区の交通問題の改善（麻生区の道路渋滞、小田急線の地下化、電柱の地中化）
都市計画道路のゼロベースでの見直し
歴史、文化を基とした都市計画
歴史の痕跡の発掘
武蔵小杉の各鉄道連結による川崎の高機能化（新幹線、横須賀線、南武線、東横線）
小杉に新幹線、横須賀線の新駅の設置
今まで蓄えたストックの有効活用

安全

防犯・治安の維持（悪化の一途たどる前にくい止めたい）
防災、地域ネットワーク
まちの安全、防災
天災に強く、より安全な環境のよい街づくり
栄養、食生活の情報の適正化

自転車や生活環境

- 放置自転車
- 自転車対策、自転車との共生
- 自転車対策のルールづくり
- 車から自転車優先へ
- ポイ捨て禁止
- 過剰包装の中止
- 使い捨て用品の制限

自然

- 多摩川の水浄化、多摩川の水質汚染、母なる多摩川
- 自然（緑、川、海）と調和した街づくりを考えたい
- 自然（海、多摩川、多摩丘陵など）と歴史を都市にインフラとして発掘・研究・保全（市民・NPO等の協力）
- 生きものが棲息できる環境
- 都市農業をどうするか（緑の保全と一体的に）
- 多摩川河畔にせせらぎ流水公園の整備（平瀬づくり、子どもの遊び、多摩川の浄化）
- ビオトープの発掘・整備

産業

- 新しい産業起し（起業や中小企業のために大学の研究成果・支援機能の活用）
- 臨海部の空洞化（産業の課題）
- 臨海部の活用（大消費地東京への物流・流通の入り口～ゴミ処理までの機能整備。中国・アジアと結ぶ中核港）
- 魅力ある商店街づくり
- 中小企業を生かした産業文化都市づくり（元気な中小企業が活躍できる環境・仕組みづくり、臨外部再生の一翼に）
- 南部地域の基礎技術、中小企業の技能がハイテクノロジーにつながる施策

3 地域社会を支えるしくみ

区のあり方

- 区への分権
- 区の自治を強化（区を政策単位へ）
- 区の自治を基本に考えた行政計画
- 内なる分権の推進

市民参加

市民活動による活気あるまちづくり

市民参画（余裕のある人しか参加できていない現実）

これまで、市政に参加していない市民の参加を考えたい

市民活力の具現化（市民館、財団事業を市民へ 市の業務範囲の見直し）

市民による新しい「公」の担い手

住民・行政が一体となつてつくる街

行政と市民の協働

公共サービスが市民の力で支えられるまちづくり

住民・事業者・行政の役割分担

市民の力で支えるまちづくり

市民と行政が情報の共有・交換をし、地域づくりを共に担う社会（地域の管理から経営へ、市民は顧客から地域経営の当事者へ）

住民が身近な生活問題を解決する相互支援活動の活性化（生活問題、福祉など）

川崎都民の知識を川崎のために活かす

お金をかけなくても、市民ができることをやっていくことが大事（ピラ剥がしなど）

公共サービスの一部をNPOが担う（公園緑地の運営管理など）

行政は思い切って市民に任せていくこと、モノ・人・金などの掘り起こしとその活用の企画運営も市民に任せていくこと

パブリックな発想を持ち新たな公共を形成（市民事業を起こし、市民が知恵者になる）

働く世代：サイレントマジョリティは声をあげていくべき

コミュニティ

近隣関係の再構築

スポーツを核とした地域コミュニティづくり

小・中学校の活用（保育、福祉、青少年活動、市民活動に活用してまちの活性化を）

NPO拠点の整備（公設民営、民設民営）

各世代間の新たな関係の構築

ソフト面の社会資本（地域住民のネットワーク化）

住んでいる「人」のあり方

4 将来ビジョン

まちづくりの方向性

人が住みたくなる都市

ずっと住みたい街とは

誰もが住みたくなる街かわさきの実現

憧れの都市かわさきの実現

若者が集まる新都市のビジョン
若い人が住みたくなる街
子育て環境を優先した住環境整備（男女で安心して働けるまち）
市外との生活圏の形成と行政
細長い地形の中でのつながり
東京、横浜とは異なるまちづくりを
独立したまちづくりより東京都などと協調したまちづくり
文化芸術のまちづくりを
自然と調和したまちづくり
サステナブル（持続可能）な街
生活支援都市かわさきの実現

地域資源

川崎の独自文化をアピール（東京・横浜とは違うお金をかけない独自文化、工業地帯をむしろアピール、新旧が溶け合い若者も高齢者も住み心地のいいまち）
「誇らしく思える」など共通の‘像’
全国・世界に情報発信する新しい川崎のイメージを
川崎の独自性（川崎らしさ、宿場街、大師などをアピール）
川崎の良いところ探して文化不毛からの転換（自分たちの市やまちの誇り）
川崎の新たなブランドづくり（地域の価値あるコンセプト・情報を発見、創出）
新たなかわさきの都市イメージづくり（川崎フロンターレとの協働）
多摩川土手に桜を植樹し、墨堤のような観光地として川崎の新名所に

総合計画の策定に向けて

行政による将来ビジョンの提示が必要
50年、100年後の市の姿・ビジョン
どの年齢層を中心に計画を考えるか
2010プランの総括が必要
市政の位置づけ（グレーター東京を視野に入れた計画づくり）
子どもたちの意見を取り上げ、反映した新計画

5 自治体・行政

施策の選択と評価

税でまかなう公共サービスの範囲を再考（市民が担う公共サービスを考える）
施策評価を継続的にできるシステム
公共事業のあり方（年度末に繰り返される道路工事など）
NPOによる政策評価、計画・施策の評価

市民の暮らしやすさを施策の評価基準に
重点的な施策の選択と優先順位の検討（地方分権、厳しい財政状況に対応するため）

財政問題

税金の使い方を考えたい
財政問題についての議論が必要

自治体運営のあり方

行政のたて割り（弊害が多い、市民に不親切？）
1万人アンケートの活用をしっかりとすべき
行政は市民の声を聞き、その意見・考えをどう活かせるか
地方分権の推進（条例見直し、市民参加、市民活動など）